

日本の火山は
半は層火山な
り

だ多し。

火山脈には富士帯火山脈の外、千島帯火山脈、霧島帯火山脈の三大火山脈あり。その他北日本には、後志那須、岩木、彌彦の四火山脈あり。南日本には、能登、立山、白山、阿蘇の四火山脈あり。山嶽の中、高峻なるものを、新高山、富士山、シルヅア山、穂高山、御嶽、乗鞍嶽、白嶺、赤石山、鎗嶽、大蓮華山とし、みな一萬尺以上の高さを有せり。

かくて我が國は、山嶽重疊し、平地は僅に全面積の九分の一に過ぎざる山國なり。特に火山岩は、全面積の凡そ五分の一を占め、火山の數は、殆ど二百に達し、その四分の一は、活火山なりとす。されば我が國は、世界火山總數の凡そ四分の一を有せる大火山國なり。且つ十二年毎に一回の大地震を有

せる大地震國なり。また一千餘の鑛泉中、硫黄泉最も多し。かく我が國の鑛泉に富めることも、世界中多くその比を見ざるべし。

第二 水系

我が國は、四面に海を環らし、降雨繁ければ、水流到る所に存すれども、地勢狹長にして、急峻なる山嶽多きが故に、大河長流あるを見ず。且つ率ね急湍的にして、風景に富めるも、水害屢臻り、漕運の便を與ふるものは少し。これ等の河川は、オコック海、日本海、太平洋、瀬戸内海及び支那東海の五大斜面を流る。五十里以上の長流には、石狩川、信濃川、北上川、阿武隈川、天鹽川、利根川、最上川、天龍川、阿賀川、十勝川、神通川、江川等あり。就中石狩川、信濃川、利根川を本邦の三大河と稱し、富士川、球磨川、最上川を本邦の三急流と稱す。河川

の灌域は、率ね平野をなせども、關東平野・石狩平野・濃尾平野・越後平野・筑紫平野等、殊に著はる。

我が國には湖沼甚だ多く、その成因種々なれども、火山及び海水の作用によりて、生ぜしものを多しとす。琵琶湖・濱名湖・霞浦・猿瀨湖・猪苗代湖・中海湖・八郎湖・風蓮湖等は、みな周回十五里以上の大湖なり。

要するに、地勢は、氣候・生業・人情・風俗等に影響を與ふるものにして、國の文明に關係すること、決して少からざるなり。

第四章 氣候と生物

第一 氣候 我が國は、緯度凡そ三十度の間に亘り、剩へ種々の影響によりて、各地、氣候を異にすといへども、その大部は、中和の島嶼的氣候に屬し、十二度を以て、その平均溫度

(1) 最低溫度の時、氷點以下三十度以下に降ることあり
(2) 最高溫度の時、三十五六度に昇ることあり

(3) 最大雨量は凡そ三千五百、最少雨量は凡そ七百に

となす。今、南北兩地の溫度を比較するに、上川の平均五度を以て最寒地とし、恒春の平均二十三度を以て最熱地とす。その差十八度に及べり、

我が國に吹く風は、夏季には、南東風多く、冬季には北西風多し。この兩風の變換する時、即ち六月に梅雨霏々たり。また九月即ち二十日の前後には、支那海に流行する大風の餘派を受けて、暴風豪雨の襲來するを常とす。雨量は、平均千五百七十三耗に達し、北部に少くして、南部に多し。また表日本の雨量多き時は、夏日にして、裏日本の雨量多き時は、冬日とす。全國を通じて、雨量最多なるは、臺灣の北部、四國・九州の南部、濃飛高原、加能越地方にして、瀬戸内海地方、奥羽・十州等は、寡雨の地に屬せり。また北陸道を以て、我が國の深雪地とな

す。これ等の氣候を測る爲めに東京に中央氣象臺を置き、全國各地に測候所の設あり。

第二 生物

我が國は、南北に長くして、温熱の兩帶に跨り、寒暖の兩海流これを洗ひて、雨多く、土地肥沃なるが故に、動物植物の種類頗る多し。南部地方には、榕樹、杪欏、竹、棕櫚、椰子、樹鳳梨、甘蔗等の熱帶植物、繁茂して、水牛、猿、飯匙青等の動物棲息す。本州には、松、杉、檜等の温帶植物あり。北部地方には、寒帶性の榎、松、蝦夷松、白楊、珙樹、蘇苔の類多くして、熊、熊等の動物、その間を徘徊す。また近海は、鯡、鮭、鱒、臘、虎、海豹、膾、膾、獸等の水産物に富めり。

第五章 天産と生業

第一 農産

我が國は、古來農を以て國の本とせしが故

に、農産頗る多くして、瑞穂國の名あり。農民は、人口の三分の二を占め、耕地は、五百餘萬町歩に達せり。農産物中、米と麥とは、二大穀産と呼ばれ、本邦人の常食且つ酒料の原料となして、その需要甚だ多し。米の主産地は、新潟、兵庫、福岡、愛知、千葉の諸縣にして、殊に防長米、肥後米、伊勢米、美濃米、播磨米等は、品質佳良なり。麥は、埼玉、茨城の兩縣に最も多くして、大麥、裸麥、小麥の種類あり。大豆は、茨城、巖手、埼玉の三縣を推し、醬油、豆腐製造の原料に供す。されども年々清國産を仰ぐこと少からず。甘藷は、鹿兒島縣、沖繩縣等の南部地方に適し、馬鈴薯は、北海道、福島縣、青森縣等の北部地方に適せり。綿の産額多きは、鳥取、大阪、廣島、愛知の諸府縣にして、河内産は、品質殊に宜し。近年我が國紡績業の勃興に伴ひて、印度、合衆國、支那等

の産を仰ぐこと最も夥し。麻は栃木・廣島・新潟・島根の四縣殊に多く、下野の大麻、北海道の亞麻、羽前の苧麻、臺灣の黃麻、各特色あり。煙草は、重に北緯三十八度以南の地に限られて、茨城・岡山・神奈川・德島・鹿兒島の諸縣に多し。特に水戸煙草・國府煙草は、東西に翳たり。甘蔗もまた北緯三十五度以南の地、殊に四國・九州に栽培せられ、甜菜は、その以北の地、重に石狩・膽振の地に適して、共に製糖の原料となる。讃岐の三盆白・大島の黑砂糖は、殊に名あり。製茶には、玉露・煎茶・紅茶・烏龍茶・番茶等の種類あれども、煎茶最も多し。その主産地を静岡・京都・三重・岐阜の四府縣及び臺灣とし、品質の佳良なるを宇治茶となす。三重・福岡・大阪の諸府縣は、蠶・蠶に富み、大に菜種油を製造す。德島・福岡・愛知・埼玉の四縣は、藍の主産地にして、沖繩縣

は、山藍の産多し。その他、北海道・奥羽地方の林檎・紀伊・和泉・薩摩の蜜柑・甲斐の葡萄等もまた名あり。

養蠶業は、我が國土、桑の栽培に適し、氣候は、養蠶に宜しきを以て、古來清國と共に世界屈指の養蠶國として、一大富源をなせり。その最も盛なるは、長野・群馬・埼玉・岐阜・福島の五縣にして、繭・蠶卵紙・眞綿・生絲の産夥し。

第二 鑛産 鑛産物は、動植物の如く、分布定まらざれども、古代に成れる山嶽の累層中より現出するもの多し。就中鐵・石炭の多少につきては、その國の盛否を卜するに足れるものなれども、我が國、石炭の産出は、東洋第一と稱せらるゝに拘らず、鐵に乏しきは、缺點といふべし。石炭の主産地は、九州及び十州にして、これを本邦の二大炭田と稱す。福岡縣最

(1)砂鐵礦・磁鐵礦最も多し近年政府筑前枝光に製鐵所を置く

も多く、十州及び佐賀・長崎の二縣これに次ぐ。殊に高島炭・三池炭・夕張炭は、品質佳良と稱せらる。無煙炭は、紀伊・肥後に多し。銅は、栃木・愛媛・秋田の三縣に多くして、世界の第三位を占め、石炭と共に外國へ輸出すること極めて夥し。銀は、秋田・岐阜・兵庫・島根の四縣を最とし、金は、鹿兒島・新潟・兵庫・秋田の四縣を最とし、近年、十州に豊富なる砂金地を發見せり。硫黄は、北海道及び巖手・長野・大分の諸縣を魁とし、世界の第二位を占む。以上を木邦の五大鑛産物と稱し、鑛産總額の凡そ九割五分を占めり。安質母尼は、愛媛・山口の兩縣を最とし、世界の第一位にあり。その他、巖手・島根・鳥取・廣島四縣の鐵、新潟縣の石油、青森縣・京都府の滿俺、宮城・岐阜兩縣の鉛等あり。

第三 林産

我が國の山林は、御料林・官林・民林の三種に

各地に大小林區を置きて山林を管轄せしむ

分たれ、二千三百餘萬町歩の段別あり。これに原野を合すれば、二千八百餘萬町歩に達し、全面積の七分を占めて、立木の數、四億餘木に上るべし。山林の大なるものは、北海道山林・羽後山林・陸奥山林・木曾山林・越中山林・天城山林・大和山林・紀伊山林・日向山林等にして、松・檜・杉・樺・樫・櫟・竹等の建築用材、松・檜・樺等の薪炭、川材及び樟腦・蠟・漆・汁・椎茸・松脂・松煙等の副産物を産せり。樟腦の産出は、臺灣に多く、世界の第一位を占む。蠟は、伊豫及び九州の北部を第一とし、漆汁は、長野・群馬の兩縣を最とす。椎茸は、豊後・日向・伊豆に多し。その他、山林は、國土の風致を添へ、氣候を調和し、水氣を貯へて、水源を涵養する等、吾人に利益を與ふること頗る多し。

第四 畜産

肉食毛衣の歐米諸國にては、牧畜業盛なり

といへども、我が國は、古來、家畜を耕耘及び運搬の用に供するに過ぎざりしが、近年、肉食の風次第に加はり、軍馬、駄馬及び工業上、毛皮の需要起りしを以て、漸次盛大となるの傾あり。現今、牧場、十餘萬町歩にして、牛、馬、豚等を飼養するのみ、牛は、岡山、廣島、兵庫の三縣に多し、殊に但馬産、因幡産は、良種の評あり。馬の主産地は、奥羽及び九州の南部にして、巖手、鹿兒島、熊本、福島、四縣を最多とし、その良種なるは、奥羽産とす。豚は、鹿兒島、沖繩、千葉の三縣に多くして、羊は、千葉縣及び十州に多し。臺灣には、盛に水牛を飼養せり。養禽は、千葉縣及び中國に行はるゝも、未だ盛ならず。

第五 水産 我が國は、海國なるを以て、水産の利甚だ多く、三百餘萬人の漁夫、これに従事し、六千餘萬圓の収益あり

て、世界の第三位を占む。殊に北海道の沿海は、世界三大漁場の一にして、鮭、鱈、昆布、鯨、鰵、虎、海豹、膾、膾、獸の産、極めて夥しく、全産額の四分の一を占む。山口、千葉の兩縣、これに次ぎ、本邦の三大水産地と稱す。鱈は、千葉、富山、茨城、長崎の四縣に多く、千葉、静岡、岡、高知三縣の鱈、千葉、宮城、兩縣の鮪、山口縣の鯛、鯖、鰯、新潟、長崎、島根三縣の鰯、巖手縣の鮎、大阪府、長野縣の寒天、殊に著はる。製鹽は、十州鹽田地方を推す。山口縣は、全産額の八分の一を産して、本邦に冠絶す。殊に赤穂鹽、齋田鹽は、品質佳良なり。

第六 工産 我が國民は、古來、審美の意匠に富むを以て、外人評して、東洋の美術國といへり。蠶絲業、最も盛にして、群馬、長野兩縣は、全産額の七割を占む。織物業の盛なるは、京都

府・群馬縣にして、これを本邦の二大機業地と稱す。就中絹織は、京都・群馬・福井・栃木の四府縣を推し、木綿織は、愛知・和歌山・埼玉・大阪の四府縣を最とす。絹綿交織は、愛知・岐阜・栃木の三縣に多く、麻織は、廣島・大阪・滋賀・奈良の四府縣に多し。綿絲業は、大阪・岡山・東京の三府縣に最も盛にして、原料は、率ね印度・合衆國・支那等より仰げり。燧寸は、兵庫・大阪・愛知・東京の四府縣、陶磁器は、愛知・岐阜・佐賀・京都の四府縣、華筵及び疊表は、豊後及び三備地方に於て製造盛なり。その他、京都府及び富山縣の銅器、大阪・東京・兵庫三府縣の製革、高知・岐阜兩縣の和紙、東京・大阪兩府の洋紙、兵庫・愛知・大阪三府縣の清酒、千葉・兵庫兩縣の醬油、最も名高し。

第七 商業

德川時代に於て、外交禁止の制を布き、士農

日本銀行(東京)
正金銀行(横濱)
勸業銀行(東京)
臺灣銀行(臺北)
北海道銀行(札幌)
農工銀行(全國各地)

横濱・神戸・大阪・長崎・函館・新潟・淡水・安平に税關を置く

工商の階級制度を設けしより、我が國の商業は、振はざりしが、近年交通機關の開くるに従ひて、物貨の集散・瀕繁を加へ、内地商業頗る活氣を帶ぶるに至れり。

内國商業の大中心は、大阪及び東京にして、銀行・會社・商業會議所・取引所等の商業機關備はり、前者は、重に關東の貨物を集散し、後者は、重に關西の商權を握れり。名古屋・廣島・金澤・仙臺・熊本・德島・小樽等これに次ぎ、米穀・酒・生絲・綿絲等の取引盛なり。

外國貿易も、また近年、長足の進歩をなして、輸出入の總額は、五億圓を超ゆるに至れり。本邦三十三開港場及び八特別開港場中、輸出價額の最も多きは、横濱にして、輸入價格の最も夥しきは、神戸なり。これを本邦の二大開港場と稱し、我が

(1)我が貿易額の四分の一を占む

貿易額の八割を占む。長崎・大阪・下關・門司・函館等これに次ぐ。生絲・綿絲・石油・羽二重・茶は、五大輸出品にして、銅燧寸・地蓆・絹手巾・綿布等これに次ぎ、主として、北米合衆國・支那・英領香港・佛蘭西・英國・韓國等へ輸出す。また棉花・砂糖・石油・金巾・鐵は、五大輸入品にして、諸機械・縮緬・吳呂綿絲・大豆類等これに次ぎ、英國・英領印度・北米合衆國・支那・獨逸・英領香港等よりこれを輸入す。實に我が國は、原料品を輸出し、工藝品を輸入するものにして、我が工業の未だ盛ならざるを知るべし。

第八 交通

近年道路・鐵道・船舶・馬車・人車・郵便・電信・電話等の交通機關備はりて、交通の便、大に開けり。道路には、國道・府縣道・里道の別あり。鐵道は、世界最初の鐵道國たる英國に後るゝこと四十餘年、即ち明治五年、京濱鐵道の敷設せられ

(2)凡そ千九百
里
(3)七千八百餘
里

(1)全鐵道延長の四割

全國燈臺の總數は百餘あり

(2)明治十年六月萬國郵便聯合に加入す

各港間に海底電線の設あり

しを始めとし、今は、官設・私設合して、四千哩の延長を有す。就中、日本・九州・山陽・關西・北海道・炭礦の五鐵道會社は、諸私設鐵道會社に冠たり。速力の最も大なるは、山陽鐵道の急行列車にして、一時間に凡そ二十七哩を進行せり。その他、各地に電氣鐵道・馬車鐵道・人車鐵道の設あり。中にも人車の總數は、二十餘萬輛に上るといふ。船舶は、汽船・帆船を合して、五千隻・百萬噸に達し、日本郵船及び大阪商船の二大株式會社等の定期船は、我が沿海の諸港は勿論、支那・韓國・浦鹽斯德・益貝・歐洲・濠洲・北米合衆國等に定期航海を開けり。

我が國に於ける電信は、明治二年郵便は、同四年電話は、同十八年に設備せられしものなれども、近年、長足の進歩をなし、各地に郵便電信局を置き、東京・神戸間には、長距離電話の

接續ありて、所々に交換局の設あり。

第六章 住民と政治

第一 種族

我が國民は、蒙古人種にして、これを大和族

YITODOGOLIT

琉球族・アイノ族・漢族・臺灣蕃族の五種族に分つ。その大部を占むるものは、大和族なれば、我が國家は一種の民族が組織すると謂ふを得べし。古來この大和族は、質朴敦厚にして、忠君愛國の念に富むが故に、清・韓・露の諸國とは、大にその趣を異にす。従ひて我が國家の日に月に強大となる所以なり。

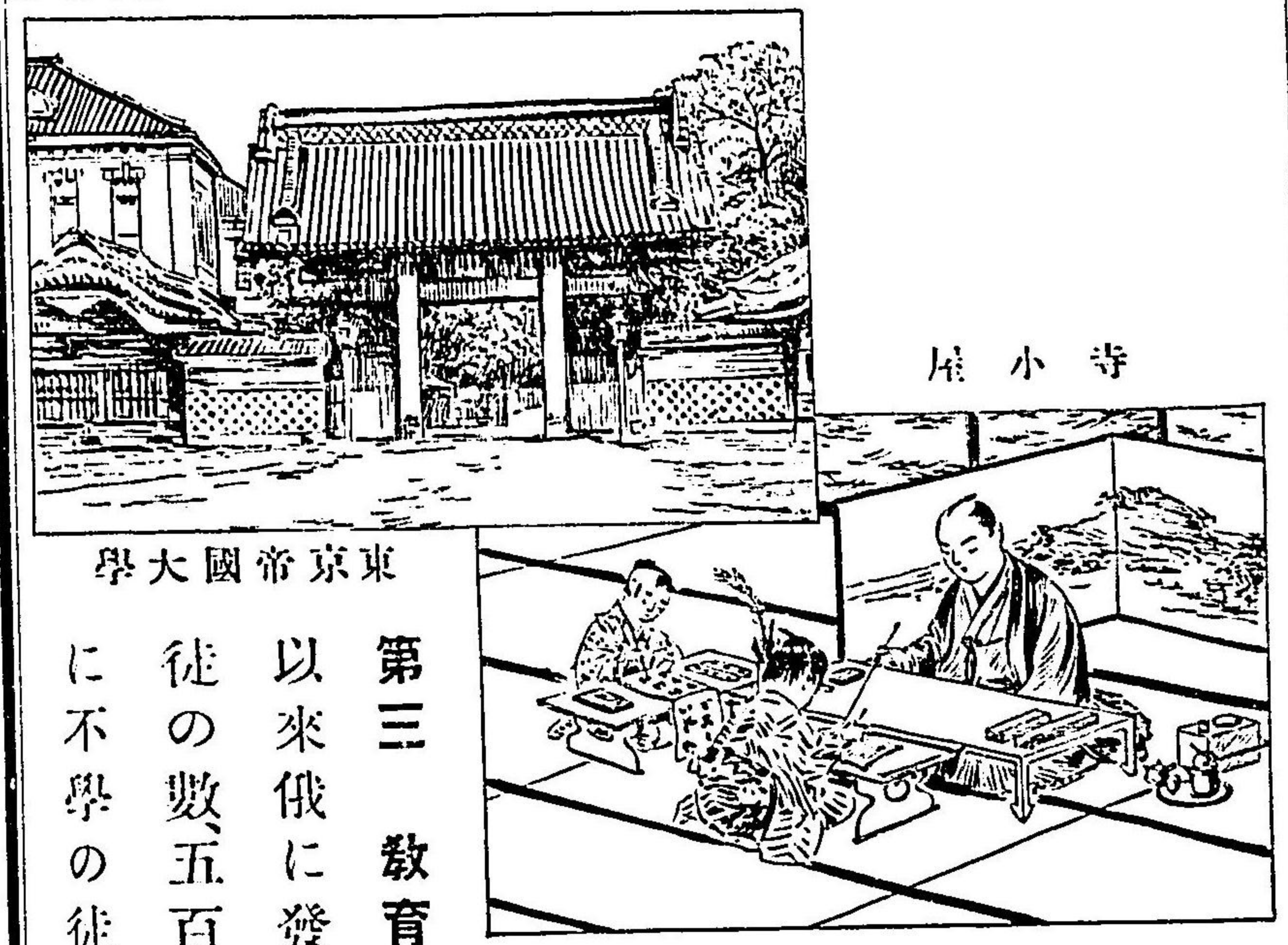
現時我が國民を皇族・華族・士族・平民の四階級に分つ。また華族には、公・侯・伯・子・男の五等爵あり。臣民たるものは、兵役に服するの外、國稅・府縣稅・市町村稅等を負擔すべき義務あるものとす。

現今我が國民の海外に在留するもの凡そ十萬人あり外、國人が我が國に在留するものは凡そ一萬人あるのみ

第二 人口

我が國人口の總數は、四千八百萬に超え、世界の第七位にあり。その増加の割合は、一年凡そ五十萬人なるを以て、百年の後には、我が國の人口は、一億に上るべし。現今に於てすら大和族を、その住せる土地の面積に比すれば、一方里二千數百人の割合となるが故に、將來愈外國植民及び十州移住の策を講ぜざるべからず。

諸島嶼中、人口の最も多きは、本州島にして、總人口の凡そ五分の三を占む。九州島・四國島・臺灣島これに次ぐ。十州島最も稀少にして、東京市の人口より尙ほ少し。また諸道中、畿内は、地域最も狭小なれども、人口の稠密せることは、帝國に冠たり。今これを府縣に徴すれば、東京・新潟・兵庫・愛知の四府縣を最も多しとす。また東京・大阪・京都・名古屋・神戸・横濱・廣島・長



東京帝國大學

寺小屋

第三 教育

以來俄に發達し、學校の數凡そ三萬生徒の數五百二十餘萬に上りて、漸次國に不學の徒なからしめんとす。殊に中

崎の八市は、人口十萬以上。の都邑にして、金澤・仙臺・福岡・和歌山・徳島・富山・岡山・熊本・鹿兒島・新潟の十市これに次ぎ、五萬以上の人口を有す。その他、人口一萬以上の都邑凡そ二百四十餘あり。

我が國の教育は、維新

等教育は、近年、非常に盛大となり、中學校のみにて、十萬五千餘の生徒を教育せり。これに師範學校・高等女學校等の生徒を加へなば、遂に大數となるべし。高等教育の學校には、帝國大學及び學習院・慶應義塾・京都同志社・早稻田等の大學部を始めとし、八高等學校・五醫學專門學校・二高等師範學校・札幌農學校・三高等商業學校・二高等工業學校・高等工藝學校・高等農林學校・外國語學校・美術學校・音樂學校・盲啞學校・商船學校・郵便電信學校・臺灣國語學校等あり。

軍事教育の學校には、陸軍大學校・海軍大學校・陸軍士官學校・海軍兵學校・海軍機關學校・陸軍砲工學校・陸軍中央幼年學校・六陸軍地方幼年學校等あり。女子教育の學校には、女子高等師範學校・華族女學校・女子大學校等あり。その他、三帝室博

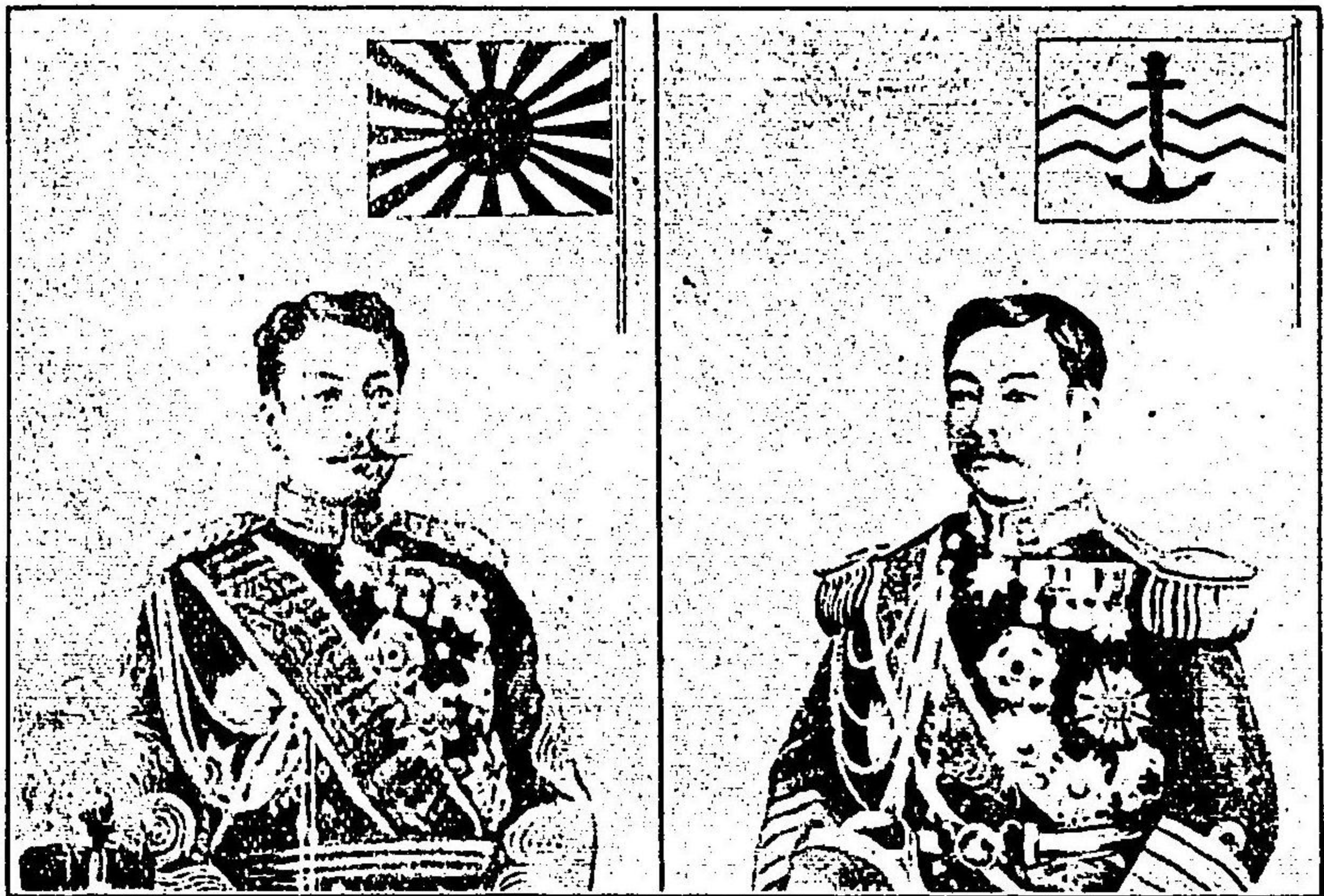
(1)伊勢大廟
(2)忠烈節義の
名士を祀る
(3)欽明天皇の
十三年(一二
一二)渡來す



釋 便にせり。
第四 宗教 我が國民は、
古來、專・神・道・を・尊・崇・せ・し・が、儒・
教・佛・教・基・督・教・の・渡・來・す・る・に
及・び・て、これに歸するもの漸
孔 及・び・て、これに歸するもの漸
子 く多きに至れり。神・社・の・階・級
には、神宮官幣社¹、別格官幣社²
國幣社、府縣社等ありて、その
數、十九萬餘に上れり。佛・教・に
基 は、眞宗曹洞宗、眞言宗を始め
督 とし、天台宗、淨土宗、臨濟宗、黃

(1)天文十年
(二二〇〇)渡
來す

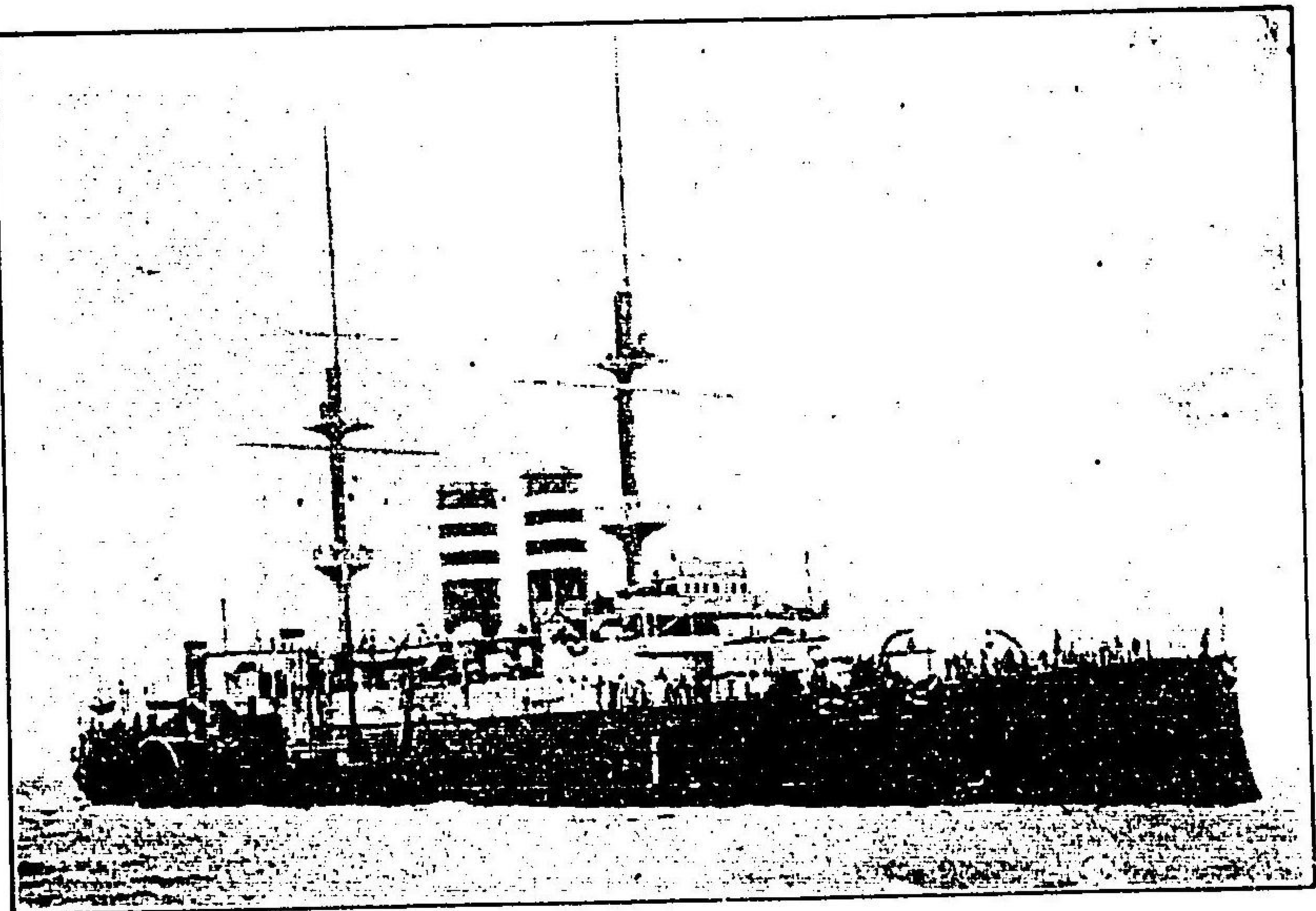
一師團は、半
れ歩兵二旅
團・騎兵一聯
隊・野戰砲兵
一聯隊・工兵
一大隊・輜重
兵一大隊・凡
そ一萬人より
成る



軍 人 と 軍 旗

葉宗、日蓮宗、時宗、融通念佛
宗、法相宗、華嚴宗の十二宗
及び四十一派ありて、寺數
七萬餘あり。基・督・教・にもま
た新舊教等の數派あり。
第五 軍備 帝國臣民
たる男子は、滿十七歳より
四十歳まで、兵役の義務あ
るものとす。兵・役・には、常備
後備補充國民の四種あり。
我が軍隊を、分ちて、陸軍及
び海軍とし、大元帥の最高

(1) 一・二・七
 八の師團
 (2) 三・四・九
 十の師團
 (3) 五・六・十
 一十二の師團



顧問なる元帥府これを統
 六
 陸軍の常備團隊には、近
 衛師團及び十二師團あり。
 三
 東¹中²西³の三都督部これを
 管す。また中央には、參謀本
 部、教育總監部、憲兵司令部
 等あり。臺灣には、三箇の混
 成旅團を置き、東京灣、由良
 舞鶴、下關、函館等には、要塞
 を置き、小笠原、佐渡、隱岐、大
 島、沖繩、五島、對馬には、警備

案圖は未だ開
 曉せず

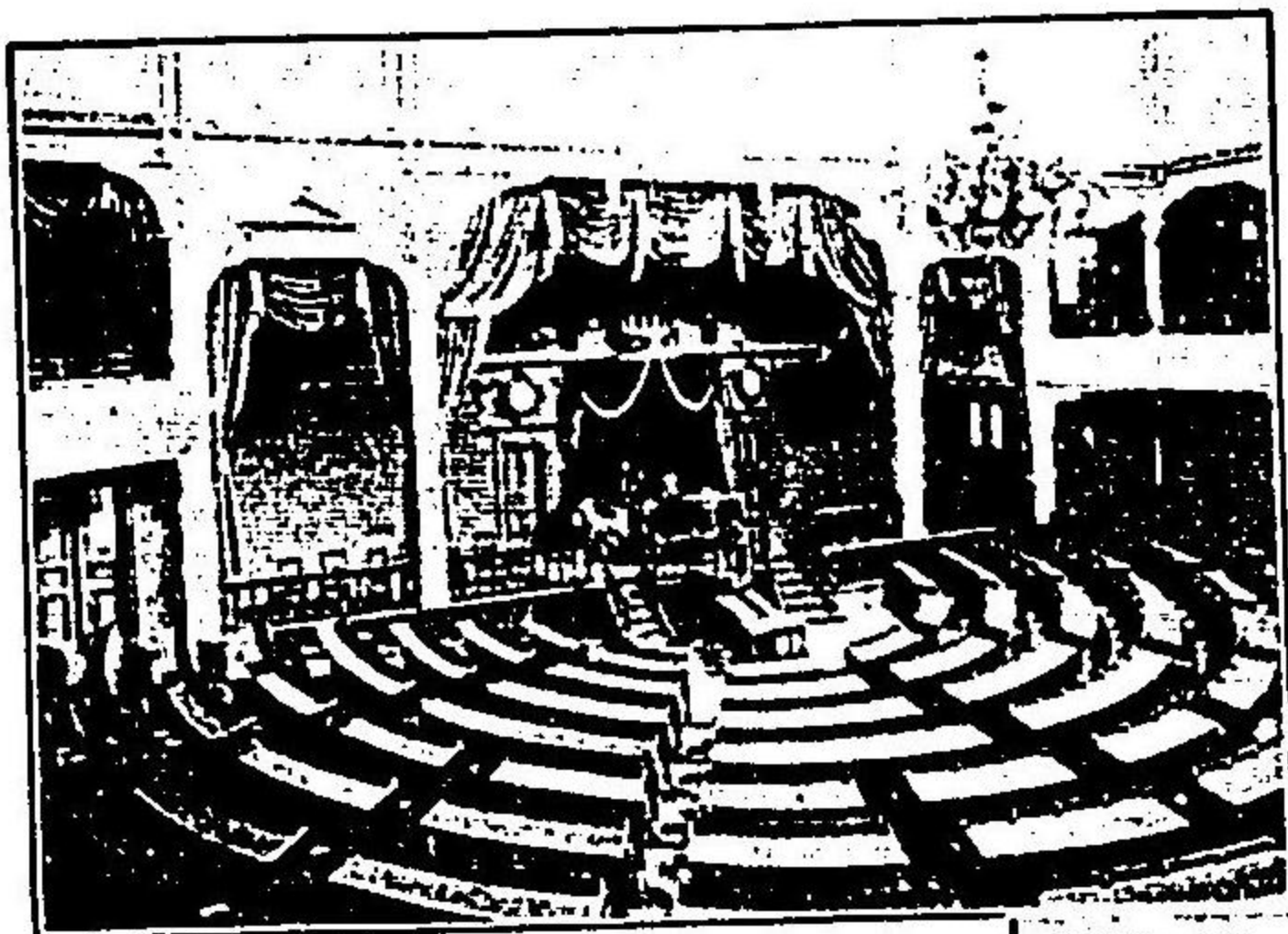
隊を置きて、これを警備せしむ。また陸軍兵の種類には、歩騎
 砲工輜重の五つと、別に憲兵あり。

海軍の制は、全國(臺灣を除く)の海岸及び海面を五海軍區
 に分ち、各海軍區に軍港を置き、鎮守府をして、これを管せし
 む。中央には、海軍軍令部、海軍教育本部ありて、これを統率す。
 軍艦の種類を分ちて、戦闘艦、巡洋艦、海防艦、砲艦、報知艦、水雷
 母艦、水雷驅逐艇、水雷艇とし、朝日、三笠、初瀬、敷島、富士、八島等
 の一等戰艦を初めとし、凡そ六十隻、二十五萬噸ありて、我
 が海軍力は、世界の第七位を占め、海軍軍人の總數は、凡そ三
 萬人あり。

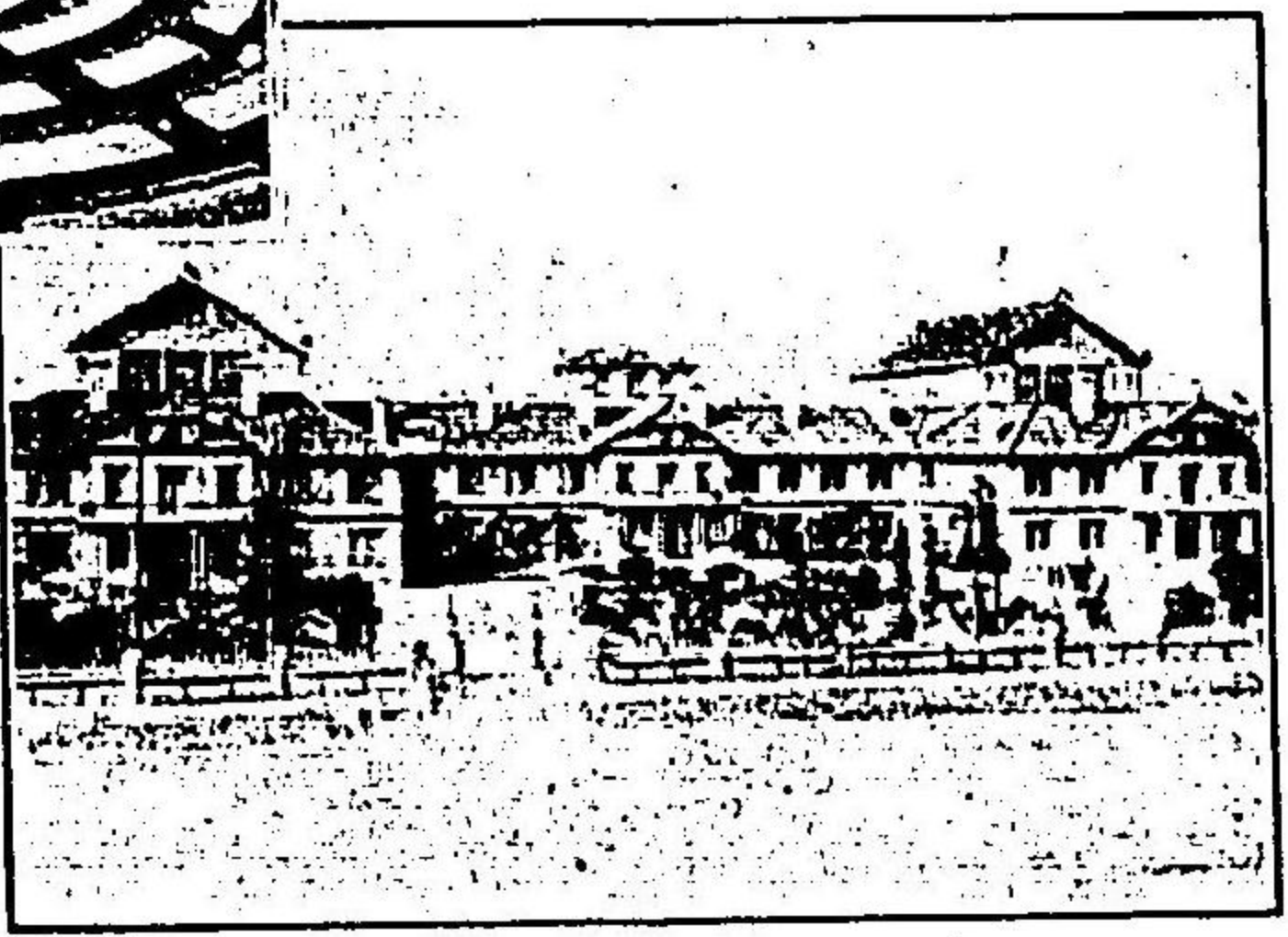
第六 政治

我が國の國體は、もと君主國にして、政體は、
 專制なりしが、明治二十三年紀元節日憲法發布せられ、英國

貴族院には三百餘の議員ありて、世襲議員・五選議員・勅選議員・多額納税議員等あり衆議院には三百六十九人の議員あり



貴族院議事堂の内部



帝國會議事堂

等と同じく、立憲君主國となれり。統治權を分ちて、立法・行政・司法の三大權となす。天皇は、國の元首として、この三大權を總攬し、併せて陸海軍を統帥し、諸般の條約を締結し給へり。立法部は、貴族院及び衆議院より成れる帝國議會これを取り行政部は、内閣の外、外務・内務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・農商務・遞信九省の中央政廳と、總督府・道・縣・市・郡・區・町

- (1) 東京にあり
- (2) 東京・大阪・名古屋・廣島・仙臺・長崎・函館の七ヶ所にあり
- (3) 各府縣に各一ヶ所と北海道に三ヶ所あり
- (4) 全國に凡そ三百ヶ所あり
- (5) 共に臺北にあり
- (6) 共に臺北にあり
- (7) 臺北・臺中・臺南にあり

村等の地方政廳とを以て組織せり。各省には、大臣あり。内閣總理大臣これを率ゐて國政を處斷す。その他、帝室の事を掌れる宮内省。天皇の至高顧問府たる樞密院。帝國の會計を監督せる會計検査院等あり。臺灣總督府には、總督あり。北海道廳には、長官あり。府縣には、知事あり。郡區以下には、長あり。また島廳には、島司ありて、各その管内を支配せり。司法部は、大審院及び控訴院、地方裁判所、區裁判所等をこれを司る。臺灣には、臺灣總督府法院、覆審法院、地方法院等ありて、特殊の司法制度を施行す。司法部を司るものには、檢事判事等あり。また東京に行政裁判所を置く。

第七 外交 我が國も、清・韓の兩國と交通せしに過ぎざりしが、天文十年(二二〇一)葡萄牙國の商船來泊せしより、和蘭・英・吉利・北米合衆國等西洋諸國の商船相踵ぎて來たり、

安政五年(一五二八)初めて北米合衆國・利蘭露西亞・英吉利・佛蘭西の五國と修好條約を結べり、現今我が國と通商條約を結べる國は、韓國・清國・暹羅(以上亞細亞洲)・英吉利・佛蘭西・獨逸・奧地利・匈牙利・露西亞・伊太利・西班牙・葡萄牙・瑞西・白耳義・瑞典・那威・丁抹・和蘭・希臘(以上歐羅巴洲)・北米合衆國・墨西哥(以上北亞米利加洲)・秘露伯刺西爾(以上南亞米利加洲)・コンゴ(獨立國)・亞非利加洲の二十三國にして、中にも英吉利・北米合衆國・清國・韓國・佛蘭西・露西亞等は、國際上關係の最も重き國とす。これ等の條約國には、公使館・總領事館・領事館を置き、公使・總領事・領事・名譽領事・貿易事務官等を置きて、我が外交上の事務を掌らしむ。

學中 日本新地理 終

明治三十五年十二月十五日印刷
 明治三十五年十二月十八日發行

著者 井原儀

發行者 林平次郎

發行者 篠崎純吉

印刷者 野村宗十郎

印刷所

株式會社 東京築地活版製造所
 東京市京橋區築地
 二丁目十七番地

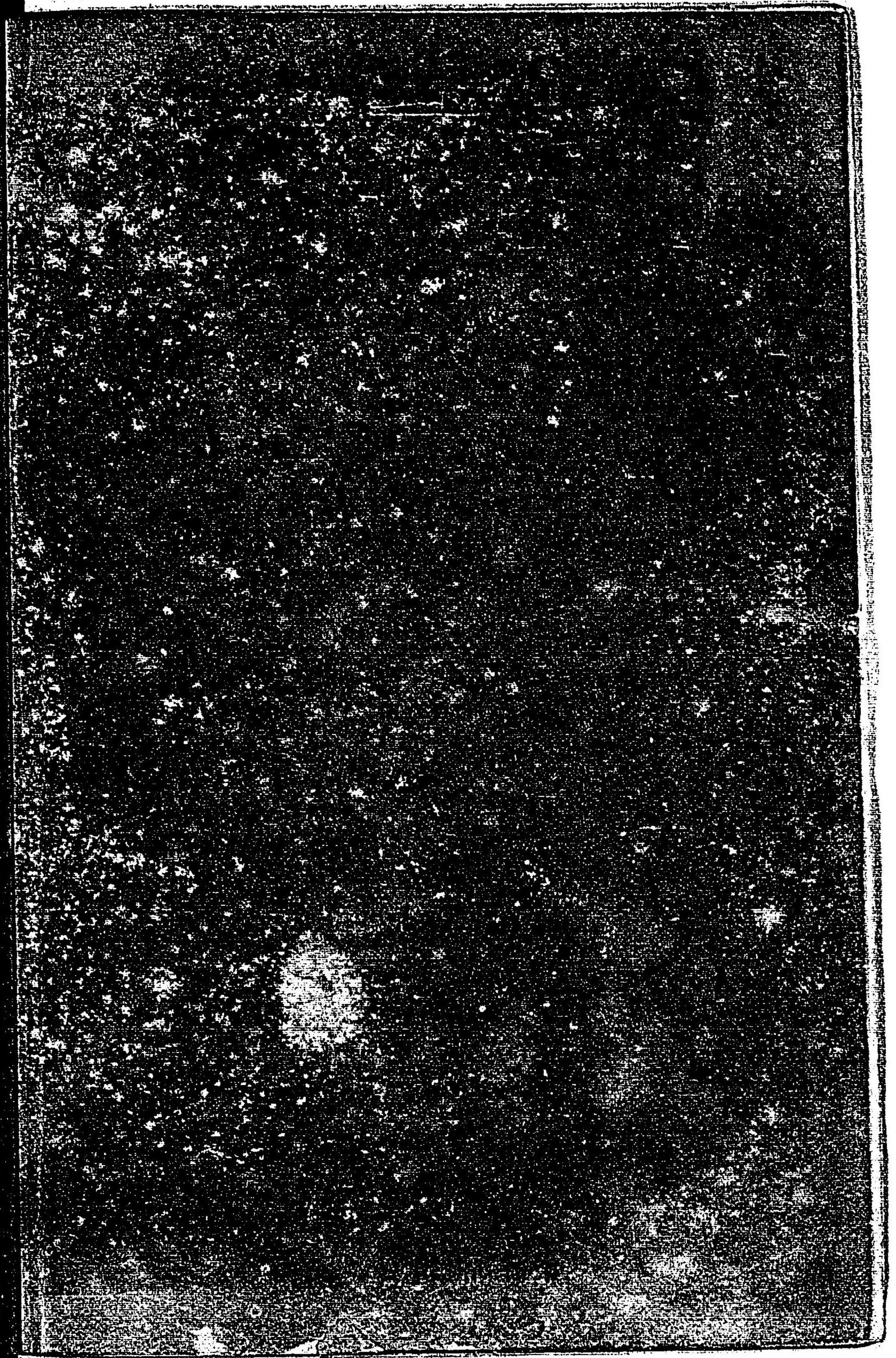
東京市京橋區築地
 三丁目十五番地

大阪市東區北久太郎町
 四丁目八番地

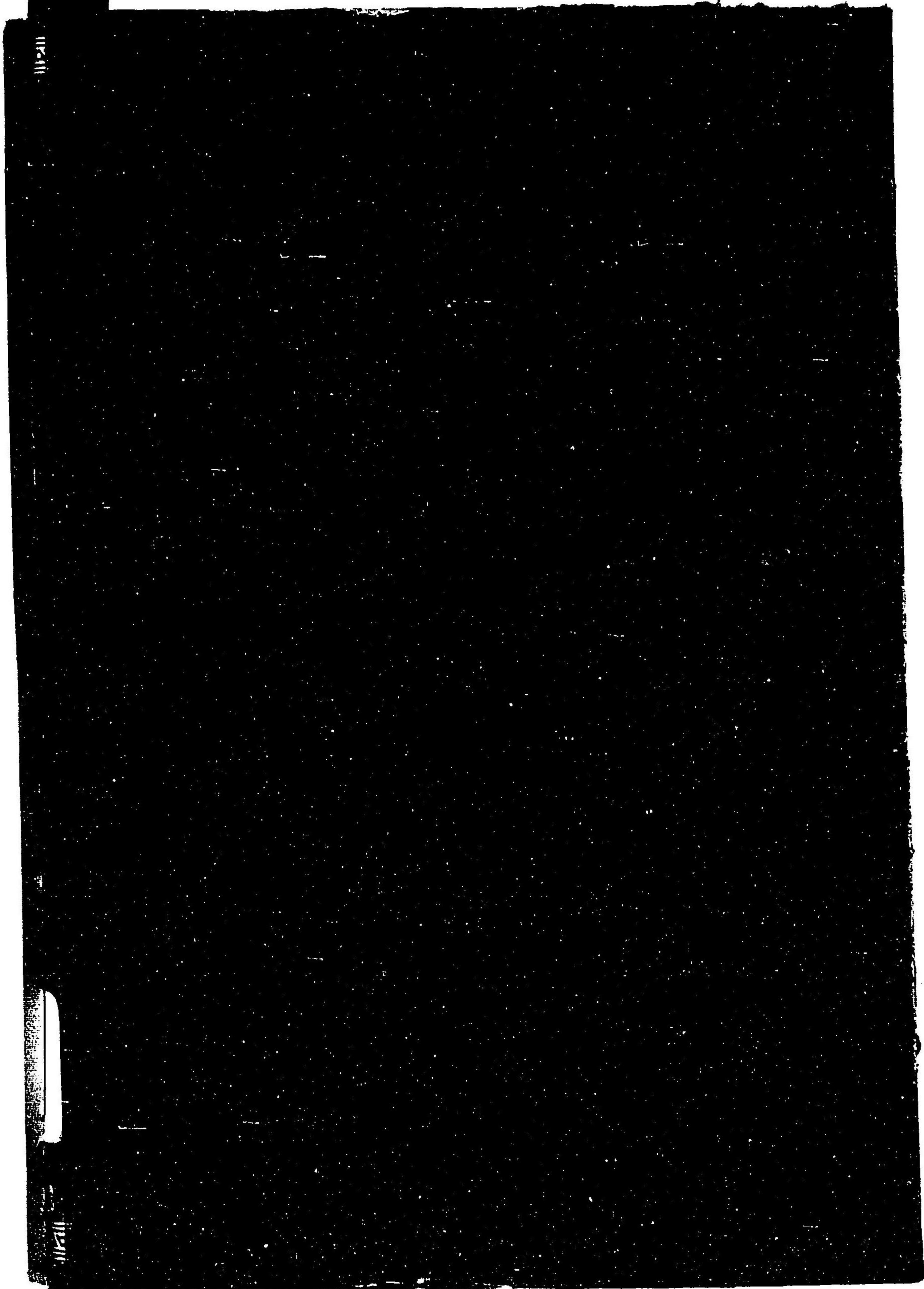
東京市日本橋區
 通三丁目六番地

定價金七拾錢





86
286



022684-000-7

86-286

中学日本新地理

井原 儀/著

M35

ADB-0460



